

都市づくりの基本方針

計画の前提条件

● 対象区域

- ① 都市計画マスタープラン：市全域を対象
- ・ 行政区域全体を見渡した都市づくりの方向性を住民等と共有するビジョン
 - ・ 都市経営や地域バランスを考慮し「都市」と「自然、農地」との調和を図る
- ② 立地適正化計画：都市計画区域内を対象（福岡町の一部山間部を除く）
- ・ 居住や都市機能の誘導を図りコンパクトなまちづくりを図る

● 目標年次：平成 47 年

・ 基準年を国勢調査実施年の H27 とし、長期的将来を見据え概ね 20 年後で設定

● 目標人口：平成 47 年 約 150 千人

・ 総合計画で掲げる「H72 125, 000 人（政策目標値）」の H47 時点の値を設定

※ただし、立地適正計画の居住や都市機能の誘導区域等の具体的検討では、趨勢人口である約 136 千人（社人研）を使用する。（政策目標人口を目指して施策を講じ、その効果を見極めながら、随時誘導区域の見直しを行う。）

総合計画（基本構想）H28.6 策定

【高岡市の「強み」と「課題」】

● 「強み」

- 〈文化力〉底力を見せる町民文化
- 〈創造力〉「稼ぐ力」を持つものづくり産業
- 〈市民力〉高い地域力が生む住みやすさ

● 「課題」

- 若者世代が共感する活力創出（若者の流出）
- 中心市街地のリノベーション（「たかまち」の空洞化）
- 周辺市街地の躍動（地域の拠点性の弱体化）
- 高岡駅・新高岡駅の相乗的利活用（交通結節機能の分散）
- ものづくり産業の復興（製造業の低迷）
- 地域力の再構築（地域のつながりの希薄化）

【将来像と目指すまちの姿】

● 将来像：豊かな自然と歴史・文化につつまれ 人と人がつながる 市民創造都市 高岡

● 都市構造の考え方：「コンパクト・アンド・ネットワーク」のまちづくり

● 目指すまちの姿（※関連分野を抜粋）

- ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している
- 水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある
- 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている
- 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている
- 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている
- 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている
- 安全で快適な生活を送っている

各地域の特性に応じた都市機能や居住機能をそれぞれの市街地内に誘導するとともに、それらを公共交通で結び、機能性、安全性、利便性の高い持続可能な都市づくりを目指すもの

都市計画上の課題の整理

〈課題整理の視点〉

- ・ 都市の概況（人口、交通、土地利用、都市施設、経済活動、地価、災害リスクなど）
- ・ 住民意向の整理（総合計画アンケート結果より）
- ・ 都市構造の分析（将来人口、広域的な関係性、都市のコンパクトさ）

● 高岡市の「強み」・・・活かす

- 多くの歴史・文化資産
- 都市基盤（公共施設、インフラ）の充実
- 高い交通利便性（広域交通・公共交通）
- 県西部中核都市としての産業や機能の集積
- 市街地を取り巻く豊かな自然環境
- 災害の少なさに対する住民からの評価

● 高岡市の「課題」・・・改善する

- 中心市街地の衰退（人口減少、賑わいの低下）
- 日常生活圏での生活サービス施設の不足
- 十分に活用されていない交通基盤
- 広域的な拠点性や産業の競争力の低下
- 郊外部における低密度な市街地の拡大
- 市街地の一部に含まれる災害危険性

前計画に基づく
施策の推進

【都市計画上の課題】

- 基盤施設や生活サービス施設が整備された既成市街地の維持
- 中心市街地の活性化や分散した各市街地における生活利便性の確保
- 地域産業の競争力向上や労働力人口の減少
- 広域交通基盤の整備や交通需要の変化への対応
- 豊かな自然環境や歴史・文化資産の保全と継承
- 防災施設の整備や災害リスクを考慮した市街地形成

都市づくりの基本方針

● 現行の都市計画マスタープランにおける基本方針

【高岡市都市計画マスタープラン H17. 3 策定】

「生き生き市民都市 高岡」

- 賑わいと活気のある都市づくり
- 交通利便性の高い交流の都市づくり
- 自然・歴史・文化を活かした都市づくり
- 安全で安心して快適に暮らせる都市づくり

【福岡町都市計画マスタープラン（都市づくりのテーマ）H15. 3 策定】

「魅力と活力を備えた ゆとりとうるおいのあるまち 福岡」

- 活力がある快適な空間に 人びとが集い交流があるまち
- 誰もが快適で安心して暮らせ ゆとりとふれあいがあるまち
- 心に残る景観があり 良好な景観を創り出すまち
- 魅力ある便利な空間で うるおいとやすらぎがあるまち

前計画から見直し

【都市づくりの基本方針】「コンパクト・アンド・ネットワーク」のまちづくり

キーワード

- 人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり（公共施設の統廃合・再編、インフラの維持）
- 中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり（中心市街地活性化、都市機能集約、拠点形成）
- 「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり（基盤整備、競争力強化、魅力のある働く場の拡大）
- 広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり（県西部の中核都市、広域交流、地域間連携）
- 自然・歴史・文化を活かした都市づくり（文化創造都市、歴史まちづくり、自然・農業との調和）
- 安全・安心で快適に暮らせる都市づくり（災害に強いまちづくり、地域力の再構築、景観づくり）

即す